

指導教員評(吉村)

「ディドロ『サロン』 —フラゴナール『コレソスとカリロエ』に関する一考察—」

【講評】

ディドロが「1765年のサロン」でフラゴナールの大作《コレソスとカリロエ》について論じる件は、その特異な語り口(一種の「夢語り」)によって『サロン』の他の部分ときわだった対照をなしています。この論文は、そうした語り口を選択も含めて、ディドロがここに込めた意味を掘り下げて論じた力作です。むずかしいテキストに真っ向から取り組み、みごとな論を構築しています。プラトンから借用した「洞窟」の場面に出る鎖に繋がれた人々の意味づけなど、やや無理もあるかなという解釈も見られますが、卒論の段階でここまで書けるのは、希有とっていいでしょう。